

それぞれの春 新卒業生たち

咳をしても痛い・・・

しかし、腰が痛い・・・それは一昨年仙台「顎関節学会」の帰りに始まった。原因は、長時間の移動、加えて一般からみれば異常な「前かがみねじり」の診療姿勢からくる日常疲労。

整形外科も二箇所通った。

しかし明確な診断名が付きにくいのが「腰痛」。脊柱起立筋炎やら狭窄症やら・・・あるいは湾曲がどうのと見識も様々だった。

「まあ、職業病ですね先生。鎮痛湿布出しますから、休んでください。」・・・という結果にたどりついて現在に至る。歩くたびに鋭敏な痛みが走るときもあれば、何かが載っているような鈍重な圧迫感もある。

長時間の外出は杖を持つ始末だ（泣）



しかし、そんな身体ではあるが、春高会Jrの練習を見ている。

といても指導に関しては無知なので、責任を取れる身内しか教えていない。昨年からは、生原先輩ら中学生指導の先端トレーニングを見学させていただき、陸上協会主催の跳躍セミナーを受講し、畑は違うが少しでも吸収できるものを自分のペースで探している。（「本職の勉強会から逃げるな！」という辛口の声は、聞こえない事にしておこう）

そんな中でドラマが・・・

主に春高で練習させてもらっているのだが、今年の3月に新卒業生達に偶然出会った。

前田、逆井らと

まず、最初に合ったのは逆井だった。実技試験があるのだという。

二人とも、なんとなく私の顔は覚えがあるようであった。



翌週は、前主将の前田がスパイクと取りにきていた。
二人とも大学で跳躍を続けたいとの事だった。

昨年の県大会の三段跳 で、
前田 薫 13m87 +2.2 (公認13m62 -1.2) 2位
逆井 智也は、13m26 +1.2 で涙の7位。

続く関東では
前田 薫 13m72 +1.5 8位。
入賞したものの、埼玉インターハイへの
出場は僅差でならなかった。

前田も逆井も7位、8位という悔しさを
味わっている。しかし、逆を言えばあと
数センチで全国的な活躍の場が広がる
有望株なのだ。

納得するまでやったらいい。
何より競技や春高陸上部が好きだ……
という姿勢が、ひしひしと伝わってきた。



大塚さんが教えた「春陸魂」は、また今年も継承されたのだ。

二人と偶然グラウンドで出会えて、とても清々しかった。

私は一人のOBとして、誇らしい思いでいっぱいになった。

筆 のもと歯科